

## TOPIC (最近の話題から)

### ■ 皆様の協力で実施しました 平成24年度中学生職場体験学習

府中市では、将来社会人となる中学生が望ましい社会性や勤労観、職業観を身に付けるため、市内を中心に多くの事業者の皆様に協力いただき、市立中学校全11校の2年生全員(約1,800人)が商店や企業、福祉施設などで職業を体験する職場体験事業を行っています。当初は3日間程度の実施でしたが、平成20年度からは全校で5日間の職場体験を実施しています。

5日間の体験によって、子供たちはそれまで抱いていた職業に対する印象や理解をより深め、将来に向けた希望や夢を育むことが期待できるとともに、働く大人たちと同じ場で、その姿を見て、任された仕事を責任をもって果たすことで、自分も役に立っているという喜びや自信を実感し、今後の学習に生かしていくことができます。

東京都においても、「わく(Work) わく(work) Week Tokyo(中学生の職場体験)」と名付け、都内の全中学校での5日間の職場体験実施を目指す取組を推進しています。また、平成23年度から、この取組の一環として東京都が中学生の職場体験に功労のあった事業者等を表彰しています。平成24年度は、市内の業者ではモナムール清風堂本店、ホテルコンチネンタル、セブンイレブン府中駅北口店の3事業者が感謝状の贈呈を受けました。

この事業は受け入れていただく事業者の皆様や、快く送り出してくださる保護者の方々のご理解・ご協力がなくては成り立たない事業です。今後も中学生が貴重な体験を通じて未来に羽ばたいていけるよう、本事業を推進してまいりますので、今年度も皆様のご協力をお願いいたします。

### オンリーワンの学校づくり ～市立小・中学校、幼稚園を紹介します～

#### 府中第七中学校

～小・中連携～



アシスタントティーチャー

府中第七中学校では、小・中連携に力を入れた教育活動を行っています。

平成24年度の取組では、5月に小学校教員を中学校に招き教科連携を図りました。また、1年生の英語の授業に小学校の先生を招いてTTの授業も行っています。さらに、3月には中学校教員が小学校に出向いて授業を行う出前授業や中学生が小学校に出向き、小学校の授業のお手伝いをするアシスタントティーチャーに取り組んでいます。

平成25年度は総合防災訓練を武蔵台小学校と連携し共に取り組む予定です。地域と一体となり小中9年間の連続する学びを心掛け取り組んでいます。

#### 府中第十小学校

「活気あふれる学校」

～児童の体力向上を目指して～



府中第十小学校は、平成24年12月に、新校舎、体育館が完成し、3学期から新しい校舎での生活が始まりました。校舎は新しくなりましたが、仮設校舎と旧体育館の解体工事や校庭整備工事のために、約1年間校庭が使用できません。現在は体育館、屋上、近くの文化センターの庭、また地域の方が提供して下さった広場等を活用して体育学習を行っています。本校児童の体力を維持していくことが大きな課題です。本校は平成25年11月に全国学校体育研究会東京大会の会場校にも決まっています。今後も体育の授業改善、体育的活動の充実を一層図っていきます。

#### 府中第一中学校

「はじめ」  
「やる気」  
「思いやり」  
とボランティア活動



府中第一中学校の教育目標を体現しているのがボランティア活動です。

ボランティア部や生徒会が中心となり、東日本大震災で被災した南三陸町にワカメ養殖に必要な「砂袋」を作って送ったり、「よさこい in 府中」へ参加して毎年、地域の方へ感謝の気持ちを伝えたりしています。また、社会福祉施設での奉仕活動は、吹奏楽部による演奏会へと広がるなど、本校のボランティア活動は教育目標を体現しながら確実に広がっています。

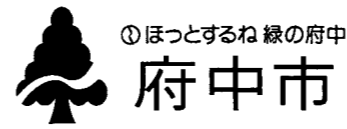
#### 府中第五小学校

「地域と共にある学校を  
目指して」



府中第五小学校は、来年の4月にコミュニティ・スクールとして新たな出発を切る準備に取り組んでいます。

コミュニティ・スクールとは、学校と家庭と地域が一体となって運営する学校のことで、学校教育に家庭や地域の思いを十分反映させる、地域の大人との関わりを通じ核家族化・少子化という状況の中で育つ子供たちに豊かな人間関係を育ませる、学校教育への参画が地域住民にとって励みとなることをねらっています。昼休み等に地域の方と囲碁・将棋やこまなどを楽しむ、登下校時地域の方に通学路の要所に立っていただく、地域と安全マップを作成するなどを現在企画し、協力者を募っているところです。



# 指導室だより

— 95号 —  
(平成25年4月発行)

【編集・発行】 府中市教育委員会教育部指導室  
〒183-8703 府中市宮西町2-24 電話 042-335-4063

## 府中市の教育について

府中市教育委員会教育長 浅沼昭夫

小・中学校共に、新学習指導要領への円滑な移行がなされました。今後はその成果を踏まえ、課題を明確にしながらか解決を目指していくことで、さらに教育課程の充実を図ることとなります。

さて、府中市教育委員会では、『学校教育プラン21』を踏まえ、先般「義務教育9年間の『学び』と『育ち』をより一層充実させる効果的な小・中一貫教育(施設分離型)の推進」計画を明確に打ち出しました。

学校間の接続を考えたとき、「小・中一貫」とは、「小・中連携」の到達目標とも言えるものです。すなわち、「小・中一貫教育」は、小学校から中学校への円滑な接続を図るために、情報交換や学校間の交流といった「連携」の段階をさらに発展させ、小・中学校がそれぞれ9年間を見据えた教育課程を編成して行う系統的な教育とされています。

「施設分離型」で、この目標を実現させるためには、「小・中」という縦の関係だけでなく、中学校を核にして、学区の小学校同士も互いに垣根を低くしながら情報の共有や教育実践の連携を深めていく必要があります。また、このことは必然的に中学校同士の連携を深めることにつながります。「小・中」という縦の関係と「小・小」や「中・中」の横の連携なくしては、義務教育9年間の系統的な「学び」と「育ち」は実現し得ない手法であると言えます。

その一方で、平成26年度からは「府中版コミュニティ・スクール」も全ての小・中学校において実施されます。この姿は、「文部科学省コミュニティ・スクール」の前段階と位置付けており、学校と地域との協働により、双方向で活性化を目指すものです。府中市の強みとも言える、学校を取り巻く重層的な支援体制を最大限発揮していただきながら、ふるさと府中に誇りをもち、心豊かでたくましい子供の育成を目指すこととなります。

しかし、「小・中一貫教育」や「府中版コミュニティ・スクール」の実現は、決して「目的」ではなく、あくまで「手段」です。地域の力を結集しながら進められる各学校のこれらの改善の取組が、結果として府中市の子供たちの確かな「学び」と豊かな「育ち」として発現されなければなりません。

学校教育の次期計画も策定作業が進められています。関係の皆様方の叡智と行動力を結集して、学校、家庭、地域が一体となって、府中市の子供たちの「学び」と「育ち」を地域ぐるみで実現していく必要があります。府中市に生まれ、育ち、学んだことが子供たち一人一人の誇りと生涯にわたってたくましく生きる自信につながるよう、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ■ 第4回中学生「東京駅伝」大会において府中市チームが健闘!

3月20日(水・春分の日)に、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園の特設周回コースにおいて、東京都教育委員会主催の第4回中学生「東京駅伝」大会が開催されました。

府中市チームは、本市を本拠地とするラグビーチーム「サントリーサンゴリアス」「東芝ブレイブルーパス」のベンチコートに身を包み、明星中学校を含む市内中学校12校が一丸となって力を結集して、本大会に臨みました。中学校が30校以上ある大規模な区市が活躍する中、府中市チームは、女子の部で第5位、男子の部で第33位の成績を収め、男女総合で参加50区市町中、第18位という好結果を残しました。府中市ののぼり旗がはためく大声援のスタジアムを中学生が力走する姿に心を打たれ、観戦している多くの人も思わず大きな声を張り上げて声援を送っていました。競技を終え、責任を果たした代表選手の表情には、充実感があふれていました。

また応援イベントでは、府中第二中学校、府中第三中学校、府中第四中学校、浅間中学校の4校が和太鼓の演奏を披露して勇壮な太鼓の音を響かせ、選手を大いに激励してくれました。

応援や選手のサポートなど、ご協力いただいた多くの関係者の皆様にご感謝申し上げます。

応援や選手のサポートなど、ご協力いただいた多くの関係者の皆様にご感謝申し上げます。





平成24年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果

■ 子供たちの学力の状況について

東京都教育委員会は、児童・生徒一人一人の「確かな学力」の定着と伸長を目的として、平成24年7月5日に「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施しました。

本調査は、小学校5年生と中学校2年生を対象に、国語、社会、算数・数学、理科、英語（中学生のみ）について「学力向上を図るための調査」と、「学習に関する意識調査」を内容としています。調査結果は、東京都教育委員会のホームページで公開されています。ここでは府中市の調査結果の概要をお知らせします。

【学力向上に関する調査結果】

◆小学校5年生 [平均正答率]

	東京都	府中市	比較
全体	61.4	61.1	- 0.3
国語	68.0	67.9	- 0.1
社会	57.6	58.8	+ 1.2
算数	58.3	56.5	- 1.8
理科	61.5	61.3	- 0.2

◆中学校2年生 [平均正答率]

	東京都	府中市	比較
全体	57.5	57.7	+ 0.2
国語	78.7	79.9	+ 1.2
社会	46.8	47.8	+ 1.0
数学	54.5	55.4	+ 1.1
理科	51.4	50.5	- 1.1
英語	55.9	54.9	- 1.0

【学習に関する意識調査結果 (抜粋)】

質 問	区分	小学5年	中学2年
必要な情報を得るために本や新聞などを読むようにしている（※「たいていしている」を含む）。	東京都	59.4	43.7
	府中市	61.4	48.7
	比較	+2.0	+5.0
複数の情報を比べたり、結びつけたりしている（※「たいていしている」を含む）。	東京都	72.4	41.5
	府中市	74.4	43.6
	比較	+2.0	+2.1
調べて分かったことや考えたことを、自分なりにまとめている（※「たいていしている」を含む）。	東京都	65.0	37.7
	府中市	68.4	43.4
	比較	+3.4	+5.7
自分の考えを、整理して分かりやすく説明している（※「たいていしている」を含む）。	東京都	59.1	38.5
	府中市	60.5	45.8
	比較	+1.4	+7.3
学校で学習した内容を日常生活に生かしている（※「たいていしている」を含む）。	東京都	74.7	51.8
	府中市	76.8	55.8
	比較	+2.1	+4.0
読書を毎日30分以上している。	東京都	47.2	35.9
	府中市	49.5	48.7
	比較	+2.3	+12.8
学校以外で、毎日およそどのくらい学習しますか（※1時間以上、塾や習い事はふくまない）。	東京都	29.7	22.3
	府中市	31.9	27.1
	比較	+2.1	+4.8
家の人と社会の出来事について話をしていますか（「たいていしている」を含む）。	東京都	72.4	67.8
	府中市	77.0	72.0
	比較	+4.6	+4.2
学校の規則やきまりを守っている（「どちらかといえば守っている」を含む）。	東京都	89.6	88.7
	府中市	93.1	92.9
	比較	+3.5	+4.2
自分のことを大切な存在だとかんじている（「どちらかといえばそう思う」を含む）。	東京都	76.7	56.8
	府中市	76.8	64.2
	比較	+0.1	+7.4

【調査結果から】

府中市の平均正答率は、小学校、中学校ともに、東京都平均正答率とほぼ同程度の定着状況といえます。意識調査では、どの項目においても東京都のものを上回り、学習や生活に前向きに取り組もうとしていることが伺えます。

【学力を向上させるために】

学校では、学力の向上を目指すために朝の読書活動や繰り返し学習、また、言語活動の一層の充実を図ります。

また、ご家庭でも「早寝、早起き、家庭学習」や「学校のできごとを話題にする」、「読書を奨励する」など子供たちに学習習慣が身に付く環境づくりをお願いいたします。

義務教育9年間の「学び」と「育ち」をより一層充実させる効果的な小・中一貫(施設分離型)の推進

小・中学校で「育てたい子供像」を共有し、  
9年間を通して地域ぐるみで子供たちの「生きる力」を育む

「9年間で育てるという意識を高める」「できるところから始め、結び付きを強める」  
「互いに知り、一緒に考え、つないでいく」「指導の充実を図り、質を高めていく」

「学び」をつなげる

- ・基礎・基本の定着
- ・個性・能力の伸長
- ・学習意欲の向上

- 相互理解に基づく教育課程の編成、指導法の工夫・改善

【相互理解促進のための取組例】

- ◇ 合同研修会（教科・分掌等）や授業交流等の定期的な実施
- ◇ 教務・生活指導・進路指導担当者等の緊密な意見交換

- 望ましい勤労観・職業観を育成するキャリア教育の推進

「育ち」をつなげる

- ・中1ギャップの解消
- ・自己有用感の高まり
- ・将来への希望、意欲

- より緊密な情報連携による校種間の段差解消
- 互いの「よさ」を伸ばす交流活動の積極的な推進

【交流活動推進のための取組例】

- ◇ 小学生の中学校授業、部活動等の体験
- ◇ 中学生による授業や読書活動、スポーツ・文化活動等の指導補助・支援
- ◇ 合唱祭等の行事や児童会・生徒会による交流

「地域」でつなげる

- ・地域の絆づくり
- ・地域の活性化
- ・将来、「地域に貢献し、地域を支える存在」となる素地を培う

- 「府中ならではの」地域力の更なる活用【地域は小・中学生共通の「学び」と「育ち」の場】

【地域活動推進のための取組例】

- ◇ 地域の伝統・文化の継承、地域行事や地域清掃への参加等、地域ごとの特色を生かした小・中学生のふれあい、交流（祭礼、お囃子、和太鼓、季節行事等、多様な機会を活用）
- ◇ 地域の方々をゲストティーチャーとして活用した地域学習、体験学習

平成23・24年度 小・中一貫教育モデル事業の成果

－ 武蔵台小、府中第七中の取組 －

- 小学校外国語活動から中学校英語への円滑な接続
  - ・ 合同研修会、相互出前授業、検証授業等により「連続した学び」を重視した研究実践ができた。
- 9年間を見通したカリキュラム開発
  - ・ 中学校の学習課題を踏まえ、小学校外国語活動の位置付けを明確にすることができた。
  - ・ 指導形態等について、共通化を図ることができた。

－ 府中第十小、白糸台小、府中第二中の取組 －

- 実践的な取組の推進
  - ・ 「あいさつ」運動の共通実践により、系統的な生活指導体制を推進することができた。
  - ・ 教職員間の積極的な交流推進により、健全育成上の課題や特別な支援を要する子供への指導等について、効果的な意見交換ができた。
  - ・ 生活指導推進協力員や家庭と子供の支援員による情報連携を推進し、きめ細やかな対応を行うことができた。